

介護福祉学科

■ 介護福祉学科 目次

【人間と社会】

人間の尊厳と自立	
人間の尊厳と自立	1
人間関係とコミュニケーション	
人間関係とコミュニケーションⅠ	2
人間関係とコミュニケーションⅡ	3
社会の理解	
生活と福祉	4
社会保障制度A	5
社会保障制度B	6
人間と社会に関する科目	
ボランティア活動	7
社会学	8
介護福祉研究（手話研究）	9
文化活動入門・華道	10
文化活動入門・書道	11
文化活動入門・茶道	12

【介護】

介護の基本	
介護の基本Ⅰ	13
介護の基本Ⅱ	14
介護の基本Ⅲ	15
介護の基本Ⅳ	16
介護の基本Ⅴ	17
コミュニケーション技術	
コミュニケーション技術Ⅰ	18
コミュニケーション技術Ⅱ	19
生活支援技術	
生活支援技術A（家事支援）	20
生活支援技術B（家事支援）	21
生活支援技術C（基本介護技術）	22
生活支援技術D（基本介護技術）	23
生活支援技術E（症状別介護技術）	24
介護過程	
介護過程総論	25
介護過程展開Ⅰ	26
介護過程展開Ⅱ	27
介護過程展開Ⅲ（事例研究）	28
介護総合演習	
介護総合演習Ⅰ	29
介護総合演習Ⅱ	30
介護実習	
介護実習Ⅰ	31
介護実習Ⅱ	32

【こころとからだのしくみ】

こころとからだのしくみ

【Ⅰ】こころのしくみ	33
【Ⅰ】からだのしくみ	34
【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみ A	35
【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみ B	36
発達と老化の理解	
発達と老化の理解Ⅰ	37
発達と老化の理解Ⅱ	38
認知症の理解	
認知症の理解Ⅰ	39
認知症の理解Ⅱ	40
障害の理解	
障害の理解Ⅰ	41
障害の理解Ⅱ	42

【医療的ケア】

医療的ケア	43
-------	----

【特設科目】

国家試験対策Ⅰ	45
国家試験対策Ⅱ	46

【社会福祉主事養成科目】

法学	47
経済学	48
児童福祉論	49
地域福祉論	50
社会福祉援助技術演習	51
福祉事務所運営論	52
社会福祉施設経営論	53
社会福祉現場実習指導	54
社会福祉現場実習	55

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	人間の尊厳と自立 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 他
概 要 及 び 目 的	人間の多面的理解、自立・自律した生活を支える必要性や、人間の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを同じ人として理解することをねらいとする。 自立・自律像の多面的な理解を促し、自立・自律した生活を支える必要性や生活モデルを基盤とした生活支援の必要性について、事例を取り上げ展開する。「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できる能力を養う。		
授業内容	【人間の尊厳と人権・福祉理念】 1. 福祉とは 2. 「人間」の多面的理解 3. 尊厳をまもるとは① 高齢者 4. 尊厳をまもるとは② 障害者 5. 人権思想の潮流 6. 人権や尊厳に関する諸規定 7. 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 8. 人権尊重と権利擁護 【自立の概念】 9. 自立とは 10. 介護における身体的な自立支援 11. 介護における精神的な自立支援 12. 介護における社会的な自立支援 13-14. 人権学習（長島愛生園 見学） 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポートを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1「人間の理解」		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	人間関係とコミュニケーションⅠ 講義・30 時間・2 単位	教員名	鈴木 晶子 大道寺 正子 他
概 要 及 び 目 的	・利用者主体の介護実践のために必要なコミュニケーション技術を身につけるため、自己理解や他者理解の重要性を学ぶ。		
授業内容	【人間関係の形成とコミュニケーションの基礎】 1. 自己理解について 2. 他者理解について 3. 集団からの影響 4. 人間関係とストレス 5. 防衛機制 6. コミュニケーションとは 7. 対人援助における基本的態度 8. 高齢者に対する心理療法的ケア 9. ユマニチュード・回想法 10. 職員間のコミュニケーション（接遇） 11. 社会人のためのマナーとルール 12. 挨拶とコミュニケーションの基本 13. 社会人としての話し方、敬語の使い方 14. 電話対応、クレーム対応 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポート提出・受講態度を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」 2. 資料		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	人間関係とコミュニケーションⅡ 講義・30 時間・2 単位	教員名	中西 貴子 他
概 要 及 び 目 的	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。 チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。		
授業内容	【チームマネジメント】 1. 介護実践におけるチームマネジメントの意義 2. ヒューマンサービスとしての介護サービス 3. 介護現場で求められるチームマネジメント 4. 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 5. ケアを展開するために必要なチームとその取り組み 6. チームでケアを展開するためのマネジメント 7. チームの力を最大化するためのマネジメント 8. 人材育成のためのチームマネジメント 9. 介護福祉職のキャリアと求められる実践力 10. 介護福祉職としてのキャリアデザイン 介護福祉職のキャリア支援・開発 11. 自己研鑽に必要な姿勢 12. 組織の目標達成のためのチームマネジメント 13. 介護サービスを支える組織の構造、機能と役割 14. 介護サービスを支える組織の管理 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポートを加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」 2. 資料		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活と福祉 講義・30 時間・2 単位	教員名	石川 静葉 太田 修平
概 要 及 び 目 的	個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、理解することをねらいとする。個人と家族、個人と社会の関係性を知り、「自助」「互助」「共助」「公助」について基本的な考え方を明らかにし、人として社会的存在であり続けることの意義を理解する。 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で捉える視点を養い、地域社会における生活とその支援について、介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策について基礎的な知識を身につける。		
授業内容	【社会と生活のしくみ】 1. 生活の幅、生活の基本機能 2. ライフスタイルの変化、家族の機能と役割 3. 社会、組織の機能と役割 4. 地域・地域社会と生活支援 【地域共生社会の実現に向けた制度や施策】 5. 地域福祉の発展 6. 地域共生社会 7. 地域包括ケア 【高齢者保健福祉】 8. 高齢者保健福祉の動向と関連する法体系 【障害者保健福祉と障害者総合支援制度】 9. 障害者保健福祉の動向 10. 障害者保健福祉に関連する法体系 11. 障害者総合支援制度 【介護実践に関連する諸制度】 12. 個人の権利を守る制度・施策 13. 保健医療に関する制度・施策 14. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 15. 地域生活を支援する制度・施策		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」 必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会保障制度 A 講義・15 時間・1 単位	教員名	大田 晋
概 要 及 び 目 的	介護保険制度と障害者総合支援制度の創設の背景と目的を理解し、介護保険制度の見直しの背景、目的及び基本的視点についても理解することをねらいとする。 介護保険制度、障害者総合支援制度が、高齢者や障害のある人の生活の中で実際にどのような活用されているのかについて理解する。 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎知識を習得する。		
授業内容	【介護保険制度】 1. 介護保険制度が作られた背景～高齢社会と介護ニーズ 2. 介護保険制度の全体像（概要） 3. 介護サービスの種類と内容／介護サービス提供者（事業者と施設） 4. 介護サービスの利用～要介護認定、ケアマネジメント、利用者負担、支給限度額 5. 介護費用・財源、介護報酬 6. 地域支援事業など 7. 介護保険制度を支えるさまざまな仕組みと組織 8. 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」 2. 配布資料（講義プリント）		
備 考	介護保険については A 4 版ノートを用意し、配布される講義プリントをノート左側に貼り、右側に講義を聞いてノートをとる。		

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会保障制度 B 講義・15 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	社会保障の歴史、その動向を理解し、社会保障が自分自身の生活とどのように関連しているのかなどを介護実践に活用できる知識として学ぶことを目的としている。 介護福祉士として、生活を支えていくために理解しておけなければならない様々な観点から社会保障のしくみをおさえる。		
授業内容	1. 社会保障の基本的な考え方 2. 社会保障の現状、社会保障の制度の体系・機能・方法 3. 年金保険制度 4. 医療保険制度 5. 雇用保険制度 6. 労働者災害補償保険制度 7. その他の諸制度 8. まとめと試験		
評価方法	試験 ※出席点を加味する		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」 2. 配布資料		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	ボランティア活動 講義・演習・30 時間・1 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	地域における様々なボランティア活動に目を向け、体験することで「共生」の意義を考え、人と関わることの楽しみや人間関係を築くためのコミュニケーションを学ぶ。 我が国の伝統芸能である銭太鼓の基礎を学び、地域での発表につなげる。また、隣接施設の利用者の方との交流を行う。そして、人間関係や共同作業の楽しさを学び、他者を思いやる心を育み、地域社会を形成するひとつの存在として、自分自身が社会的な価値や役割を持っていることを自覚する。		
授業内容	1. オリエンテーション：科目の予定と内容 2. 身近なボランティア：隣接施設での清掃・草取りなど 3. 銭太鼓 基本講習会 4. 昔の歌を歌おう 5. うた体操を学ぼう 6. 昔の歌を披露しよう 7. 銭太鼓披露に向けて（練習①） 8. 〃 （練習②） 9. 〃 （練習③）リハーサル 10. 銭太鼓お披露目会① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. レクリエーションを学ぼう① 14. 〃 ② 15. まとめとレポート		
評価方法	1. 出席・提出物 2. 授業態度 3. レポート		
テキスト	テキストなし ※必要な場合は資料を配布する		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会学 講義・30 時間・2 単位	教員名	横山 なおみ
概 要 及 び 目 的	本講義では、介護福祉士としての必要な社会学の知識を提供するとともに、人とのかかわりの中で実践に生かせる知識も提供する。 グループワークも必要にあわせて実施し、他社の意見を聞き、自らの意見も言え、意見をまとめる力の育成の一助とする。		
授業内容	1. 社会学とは何か。介護福祉士と社会の関係性から考える。 2. 社会のなかでの人とのつながり。かかわりの重要性を考える。 3. 社会と適応について。高齢者施設と適応について考える。 4. 人は人と分かり合えるのかを社会学の立場から学ぶ。 5. コミュニケーションについて学び他社とのかかわりに生かす (1) 6. コミュニケーションについて学びかかわりについて生かす (2) 7. コミュニケーションについて学びかかわりについて生かす (3) 8. アイデンティティについて社会学の立場から学ぶ (1) 9. アイデンティティについて社会学の立場から学ぶ (2) 10. 「普通」と「普通じゃないこと」について社会学の立場から学び高齢者理解に生かす。 11. ジェンダーについて社会学の立場から学ぶ。 12. 家族と高齢者虐待について社会学の立場から学ぶ。 13. 地域共生社会と合理的配慮について学び地域づくりに生かす。 14. 振り返り 15. 試験		
評価方法	出席、授業態度、試験		
テキスト	授業ごとに配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護福祉研究(手話研究) 講義・演習 30 時間・1 単位	教員名	大江 朝美 他
概 要 及 び 目 的	手話、聴覚障害、聴覚障害者の生活及び関連する制度等についての理解と認識を深めるとともに、簡単な手話が理解でき、手話表現技術を習得する。全国手話検定 4・5 級の取得をめざす。		
授業内容	1. 講義) ①聴覚障害の基礎知識、②聴覚障害者の生活 2. ③手話の基礎知識 3. 実技) (手話表現の基礎) ——伝えあってみましょう 4. (手話表現①) ——名前を紹介しましょう 5. (手話表現②) ——家族を紹介しましょう 6. (手話表現③) ——数を使って話しましょう 7. (手話表現④) ——趣味について話しましょう 8. (手話表現⑤) ——仕事について話しましょう 9. (手話表現⑥) ——住所を紹介しましょう 10. (手話表現⑦) ——自己紹介しましょう 11. (手話表現⑧) ——1 日のことを話しましょう 12. (手話表現⑨) ——1 か月・1 年のことを話しましょう 13. (総合まとめ①) ——実技のまとめ 14. (総合まとめ②) ——介護場面での会話を学びましょう 15. 試験 (手話表現・読み取り・基礎知識)		
評価方法	1. レポート、提出物 2. 試験 3. 出席点を加味する		
テキスト	その都度、関連資料を配布 全国手話研修センター「手話を学ぼう手話で話そう」		
備 考			

年次・学期	1 年次・6 月～11 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・華道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	石川 静葉
概 要 及 び 目 的	日本独特の伝統的な文化としての生け花は、美しい花はもとより、花なき草木をも人の命と重ねて生命をいつくしみ生けて飾る生活の中に深く継承された美意識です。 一瓶の生け花により、なごみ癒されることでしょう。介護福祉士としてのゆとりある心や豊かな感性を生け花を通して学んで頂きたいと思います。命あるものへのやさしさもこの授業の中で会得してください。		
授業内容	オリエンテーション－授業の目的と内容・実技について 歴史と観賞について 初歩の生け花－切り方、挿方、水揚げ－楽しく花と向きあい挿す 自由花－季節の変化、個性と構成 生花－規矩性を学ぶ 技術を学ぶ 生花以外のものを使って（施設などで活用出来る） 少し難しい作品にチャレンジする 学院祭の発表に向けての準備 学院祭発表作品		
評価方法	絶対評価（優・良・可） 提出作品の評価・出席状況・受講態度		
テキスト			
備 考			

年次・学期	1 年次・6 月～11 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・書道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	寺谷 和子
概 要 及 び 目 的	日本の伝統文化である書に対する教養を深める。 実技実習を通して、書の基礎技能の習得を図り、あわせて文房四宝（筆・墨・硯・紙）について理解を深める。 生活の書に取り組み、日常の暮らしの中で、毛筆が活用できるようにする。 自分で作品を作る喜びを体験するとともに、集中力を高める。		
授業内容	1. オリエンテーション（実習の目的と内容、教材、教具等の説明） 文字の簡単な歴史 2. 自分の名前を楷書・行書で書く。 3. 古典の法帖をもとに、楷書の基礎を学ぶ。 4. 古典の法帖をもとに、行書の基礎を学ぶ。 5. 半紙に楷書・行書で作品を書く。 6. 漢字・かな混じり文を学ぶ。 7. 生活の書（小筆）を学ぶ。【楷書】 8. 生活の書（小筆）を学ぶ。【行書】 9. 慶弔句について学び、熨斗袋に書く。 10. 色紙・半切に書く。課題選びと練習 11. 色紙・半切作品の完成。 12. 消しゴムに印を彫り、色紙・半切に押印する。 13. 学院祭展示作品の計画。 14. 学院祭展示作品の練習。 15. 学院祭展示作品の出品。		
評価方法	1. 提出作品の評価 2. 出席状況 3. 受講態度		
テキスト	九成宮醴泉銘 唐 欧陽詢 中国法書選 33 二玄社 神龍半印本蘭亭序 東晋 王羲之 中国法書選 33 二玄社 配布資料・プリント		
備 考	学院祭に掛軸等の作品を展示する。		

年次・学期	1 年次・6 月～11 月	担当科	介護福祉学科
科 目 名	文化活動入門・茶道 講・演・30 時間・1 単位	教員名	林 澄子
概 要 及 び 目 的	四季あります日本の文化の1つの茶道を通じて、少しでも礼儀作法や所作を学び、時代は変化しても現代に通じるおもてなしの心を学ぶ事を目的にしています。これから従事する信頼関係の職場に活用できる事が目標。		
授業内容	1. オリエンテーション（授業の目的と茶道の歴史等） 2～5. 緑茶の入れ方（玄米茶 ほうじ茶 煎茶等） 6～12. お抹茶 盆点前の稽古 風炉抹茶手前 13～15. お抹茶 ミニ模擬お茶会		
評価方法	1. 実技テスト 2. 出席状況・受講態度を加味する		
テキスト	配布資料・プリント		
備 考	懐紙 楊枝		

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本 I 講義・60 時間・4 単位	教員名	小 淵 順子 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 介護福祉の意義や役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、介護実践の基本的姿勢についてノーマライゼーションや ICF、介護の倫理などを通して理解する。さらに、法の改正に伴う資格取得方法や医療的ケアの必要性について理解する。 介護福祉を取り巻く歴史や、法規を理解するとともに介護福祉士の社会的役割と理念が理解できるようになる。体験学習を通して高齢者、障害者施設の機能及び、多様な生活の実態を理解する。		
授業内容	1 ～ 2. オリエンテーション 3. 介護とは（介護福祉の基本となる理念） 4 ～ 5. 介護の成り立ち 6. 介護の概念の変遷 7 ～ 10. 介護福祉士の役割と機能 ・ 介護福祉士を取り巻く状況 ・ 社会福祉士及び介護福祉士法 ・ 介護における専門職団体の活動 ・ 介護福祉士の倫理 11 ～ 13. 介護を必要とする人の理解（高齢者・障害者） 14 ～ 16. 感染症について（実習に向けて） 17. 実習振り返り（高齢者施設の機能と生活の理解） 18. 中間試験 19. 実習振り返り（障害者施設の機能と生活の理解） 20. 私たちの生活の理解 21. 介護福祉を必要とする人たちの暮らし 22 ～ 23. 生活のしづらさの理解とその支援 24. 自立支援の考え方（自立に向けた介護） 25. I C F の考え方 26. 自立支援と介護予防 27 ～ 28. 自立支援とリハビリテーション 29. 介護の基本的理解（まとめ） 30 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. レポート・提出物 3. 授業態度 出席状況		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本 I」 4 「介護の基本 II」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 地域包括ケアシステムの実現にむけて身近な地域に目を向けた体験学習を通して生活者の視点から住み慣れた地域で生活することの意義と介護の役割を理解する。		
授業内容	1. 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 地域包括ケアシステム 2. 住み慣れた地域で生活することへの支援 3-4. 地域福祉学習（アール・ケア見学） 5-9. 外出支援体験学習 10-11. 住み慣れた地域で生活することへの支援 12-13. ふれあいセンター、地域包括支援センター見学 14-15. 地域福祉学習まとめ		
評価方法	1. 外出支援体験、地域福祉学習の総合評価（レポートなど） 2. 出席状況・提出物も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」 4 「介護の基本Ⅱ」		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅲ 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 齋 藤 真智子 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とするケアマネジメントの意味としくみ、介護過程の関係を理解し、多職種連携の実践により利用者の生活を持続させる視点を養う。 介護サービスと介護福祉士の働く場の特性を理解し、その中で介護福祉士の位置づけと役割を明確にすることで介護のあり方を考える。		
授業内容	1. 介護サービスの意味と特性 2. ケアマネジメントの意味としくみ 3. 介護サービスの種類と提供の場 4. 高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性 5. 高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性 6. 特定施設 7. 地域密着型施設 8. 障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性 9. 障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性 10-11. 協働する多職種連携の役割と機能 12-13. 地域連携 14. まとめ 15. 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席状況・提出物		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」 4 「介護の基本Ⅱ」 9 「介護過程」		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅳ 講義・30 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子 森脇 美香
概 要 及 び 目 的	要介護者が増え続ける一方で、介護人材の不足がさげばれている今日、最先端技術を介護に活用する介護施設が増えている。 本科目では、支援型介護ロボット（HAL）や、コミュニケーション型介護ロボット等実際に触れ、その体験を通して現状の把握と課題を考え、効果的な活用法について理解する。 また、介護の多様性に対応していくため、ハンドマッサージの演習を通し、介護の幅を広げる。		
授業内容	1. オリエンテーション（介護における最先端技術） 2. 支援型介護ロボット HAL・マッスルスーツを使用してみよう① 3. 〃 ② 4. ハンド・フットマッサージ① 5. 〃 ② 6. 就職支援セミナー①（面接のマナー） 7. 〃 ②（ビジネスマナー） 8. 昔遊びを体験しよう（折り紙） 9. 絵てがみを書こう 10. 介護の未来を考えよう（SDGs） 11. 映画鑑賞① 12. 〃 ② 13. 福祉用具を学ぼう①（きらめきプラザに行こう） 14. 〃 ② 15. まとめ・レポート		
評価方法	1. 提出物 2. 授業態度 3. 出席状況		
テキスト	なし ※必要な場合は資料を配布する。		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護の基本Ⅴ 講義・30 時間・2 単位	教員名	小淵 順子 田中 いづみ 石川 静葉 他
概 要 及 び 目 的	本科目は領域「介護」の基礎となる科目である。「尊厳の保持」「自立支援」の概念を理解し「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 介護現場における安全の確保とリスクマネジメント、事故防止、感染対策についてのしくみを知るとともに、具体的な対策方法について考えることができる。 介護福祉士として、チームの一員として働くにあたり、2 年間の総まとめとして自己の介護観をまとめる。		
授業内容	1-4. 介護における安全の確保とリスクマネジメント 5. 感染症対策 6. 介護従事者の安全① 健康管理の意義と目的 7-8. 介護従事者の安全② こころの健康管理 ストレスとアンガーマネジメント 9. 介護従事者の安全③ 身体 of 健康管理 10. 介護従事者の安全④ 労働環境の整備 11. 災害時における生活支援 12-13. 介護観について 14. 働くということ、自分を知ること 15. まとめ・テスト		
評価方法	1. 試験 2. レポート・提出物 3. 出席状況		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」 4 「介護の基本Ⅱ」 6 「生活支援技術Ⅰ」		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	コミュニケーション技術 I 講義・演習・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 寺 谷 和子
概 要 及 び 目 的	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割などを理解し、状況・状態に応じたコミュニケーション技法を学習する。 介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術の習得、コミュニケーション障害のある利用者を理解し、適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。 さらに、文書作成の基本を学び、文書発信に関する知識と技術、目的に応じた適切な表現ができる力を養い、文章によるコミュニケーション力の向上を図る。		
授業内容	1. 介護を必要とする人とのコミュニケーション 2. コミュニケーションの基本技術① 傾聴・受容・共感（演習含む） 3. コミュニケーションの基本技術② 言語・非言語・準言語（演習含む） 4. コミュニケーションの基本技術③ 目的別・集団（演習含む） 5. 介護における家族とのコミュニケーション 6. 文書作成の基本（受信者名と敬称、封筒の書き方） 7. 文書作成（1）（文書の構成と配置・頭語と結語） 8. 文書作成（2）（前文・主文・末文の書き方） 9. 文書作成（3）（お礼状文書の表現方法） 10. 文書作成まとめ（お礼状作成から投函まで） 11. 介護におけるチームのコミュニケーション 報告・連絡・相談 12. 介護における記録① 意義・目的・記録の種類 13. 介護における記録② 記録の実際 14. 会議の種類と運用 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポート提出・受講態度を加味する 3. 提出物		
テキスト	1. 中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 「コミュニケーション技術」 2. 資料		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	コミュニケーション技術Ⅱ 講義・演習・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 柴田 富夫 佐藤 聡子
概 要 及 び 目 的	介護現場で必要とされる人間関係形成のためのコミュニケーション技術の習得をするとともに、障害のある利用者を理解し、適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。 聴覚障害、視覚障害等、障害をもつ人を理解するとともに、要約筆記、展示の基本的なコミュニケーション手段を習得し、社会や現場で役立てることができるようにする。		
授業内容	【障害の特性に応じたコミュニケーション】 1. コミュニケーション障害への対応の基本 2. さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 3. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際① (視覚障害、聴覚障害、構音障害、失語症) 4. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際② (認知症、うつ病・抑うつ状態、統合失調症) 5. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③ (知的障害、発達障害、高次脳機能障害、重症心身障害) 6. 視覚に障害のある人とのコミュニケーションの意義と目的・基本 7. 点字の概要、点字の打ち方 8. 点字（濁音、半濁音） 9. 点訳問題集基礎編① 10. 点訳問題集基礎編② 課題レポート（点字用紙 2 ページ分） 11. 中途失聴・難聴のある人の現状と課題 12. 要約筆記の基礎知識 13. 日本語の基礎知識 14. 話し言葉の基礎知識 15. ノートテイク技術の習得		
評価方法	1. 試験 2. 出席点・レポートを加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 点字：「初めての点字」全国視覚障害者情報提供施設協会 要約筆記：テキストは使用せず、その都度、レジュメを準備し配布する。		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 A (家事支援) 講・演 30 時間・2 単位	教員名	溝口 佳代 小渕 順子
概 要 及 び 目 的	生活支援・居住環境整備・被服生活・食生活の基本的知識の学習を行う。 生活支援の基本的な考え方をもとに、介護を必要とする人の自立・自律を尊重し、見守ることも含めた適切な家事支援技術を身に付ける。潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術や知識について習得することをねらいとする。		
授業内容	【生活支援の理解】 - 生活支援① 生活支援とは - 生活支援② ライフサイクル・生活支援のポイント - 生活支援③ 生活支援と介護過程・チームアプローチ 【自立に向けた居住環境の整備】 - 居住環境の整備① 住まい・生活空間 - 居住環境の整備② 快適・安全な生活環境 - 居住環境の整備③ 高齢者・障害者の住まい・多職種連携 【福祉用具の意義と活用】 - 福祉用具① 福祉用具とは・福祉用具の種類 - 福祉用具② 適切な福祉用具を選ぶための視点 【自立に向けた家事の介護】 - 高齢者の生活の特徴と課題・生活設計の考え方・家庭経済活動 - 被服生活の基礎知識 - 高齢者・障害者の被服生活 - 食生活の基礎知識① 食生活の変化・施策 - 食生活の基礎知識② 五大栄養素・献立の立て方 - 食生活の基礎知識③ 食品衛生・調理の基本 - まとめ・試験		
評価方法	1. 出席点・筆記試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術 I」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術B(家事支援) 講・演 60 時間・4 単位	教員名	溝口 佳代
概 要 及 び 目 的	介護を必要とする人がどのような状態であっても、自立・自律を尊重し、見守ることも含めた適切な家事支援の技法を身に付けるとともに、安全に援助できる技術や知識を習得することをねらいとする。 一人ひとりの家事支援技術力の向上を目指す。		
授業内容	【自立に向けた家事の介護】 1・2 家事支援の意義と目的 家事支援の視点 1 実習室準備・調理の基本 3・4 家事介助の技法 家計管理 1 家事支援の視点 2 家事の介助の技法 調理 1 5・6 家事の介助の技法 家事支援 家計管理 2 調理 2 7・8 家事の介助の技法 調理 3 9・10 家事の介助の技法 調理 4 11・12 家事の介助の技法 調理 5 13・14 家事の介助の技法 調理 6 15・16 家事の介助の技法 調理 7 17・18 家事の介助の技法 調理 8 19・20 家事の介助の技法 洗濯・管理 家事支援の視点 3 21・22 家事の介助の技法 裁縫 1 23・24 家事の介助の技法 裁縫 2 清掃・片付け 25・26 家事の介助の技法 室内環境 27 まとめと筆記テスト 28・29・30 総合演習 調理		
評価方法	1. 出席点 2. 筆記試験 3. 提出物点 4. 演習態度		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術 I」		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 C (基本介護技術) 講・演 120 時間・8 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 介護の原則である「自立（自律）支援」「尊厳の保持」「安全・安心」を土台とし、対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につける。 ICF の概念に基づくアセスメントを行い、さまざまな対象者に適切な生活支援が展開できることを目指す。		
授業内容	1 ～ 2. オリエンテーション、基本となる技術とは 3. ICF の視点とアセスメント 4 ～ 15. 自立に向けた「移動の介護」 ・自立した移動とは ・状態に応じた移動、移乗の介護 内容 体位変換、安楽な姿勢・体位、車いす介助、歩行の介助 等 ・多職種との連携 16 ～ 22. 自立に向けた「身じたくの介護」 ・自立した身じたくとは ・状態に応じた身じたくの介護 内容 整容、口腔ケア、衣類の着脱 等 ・多職種との連携 23 ～ 26. 自立に向けた「食事の介護」 ・食事の意義と目的 ・状態に応じた食事の介護 ・多職種との連携 27 ～ 35. 自立に向けた「入浴・清潔保持の介護」 ・自立した入浴・清潔保持とは ・状態に応じた入浴・清潔保持の介護 内容 入浴、部分浴、清拭、洗髪 等 ・多職種との連携 36 ～ 46. 自立に向けた「排泄の介護」 ・自立した排泄とは ・状態に応じた排泄の介護 内容 トイレ、ポータブルトイレ、尿器便器、おむつ、おむつ体験 等 ・多職種との連携 47 ～ 57. 「休息・睡眠の介護」 ・休息、睡眠とは ・状態に応じた休息、睡眠の介護 内容 ベッドメイキング、褥法 等 ・多職種との連携 58 ～ 60. 「人生の最終段階における介護」 ・意義と介護の役割 ・人生の最終段階の介護 ・多職種との連携		
評価方法	1. 出席点 2. 演習態度（みだしなみ、忘れ物の有無、意欲 等） 3. 筆記試験（中間・終講） 4. 実技試験		
テキスト	中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 最新 介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」		
備 考	授業形態は、講義と演習ですすめていきます。（※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる） 演習時は、実習服・実習靴が必要です。		

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 D (基本介護技術) 講・演 60 時間・4 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 生活の継続性を支援する観点から、生活支援技術 C (基本介護技術) の知識・技術を土台に、対象者の個々の状況に応じた支援が実践できるための個別援助技術を習得する。 また、社会生活の維持拡大に向け、ご利用者の楽しみ、役割、生きがいにつながる視点を養い、状況に応じた生活支援技術が実践できることを目指す。		
授業内容	1 ～ 6. 社会生活の維持拡大に向けた援助① 福祉レクリエーション 7 ～ 10. 社会生活の維持拡大に向けた援助② 唱歌 11 ～ 12. 社会生活の維持拡大に向けた援助③ 化粧療法 13 ～ 14. 社会生活の維持拡大に向けた援助④ 災害時の対応 15 ～ 30. アセスメントに基づいた個別援助技術 介護過程の実践的展開		
評価方法	1. 出席点 2. 演習態度 (みだしなみ、忘れ物の有無、意欲 等) 3. 筆記試験 4. 実技試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6「生活支援技術Ⅰ」 最新・介護福祉士養成講座 7「生活支援技術Ⅱ」		
備 考	授業形態は、講義と演習ですすめていきます。(※介護実習の時期に応じて、項目が入れ替わる) 演習時は、実習服・実習靴が必要です。		

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	生活支援技術 E(症状別介護技術) 講・演 30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	「こころとからだのしくみ」「障害の理解」で学んだ知識を応用して、利用者の状態・状況に応じた適切な生活支援技術を習得する。 人体の構造や機能の学びを踏まえて、症状別介護技術の習得を内容とする。 利用者がどのような状態であっても、自立支援に向けての生活支援技術が提供できる統合的能力を養う。		
授業内容	1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 2. 肢体不自由に応じた介護 3. 視覚障害に応じた介護 4. 聴覚・言語障害に応じた介護 5. 知的障害・重症心身障害に応じた介護 6. 発達障害に応じた介護 7. 精神障害に応じた介護 8. 高次脳機能障害に応じた介護 9. 内部障害に応じた介護 ①心臓・呼吸器機能障害に応じた介護 10. 内部障害に応じた介護 ②腎臓機能障害に応じた介護 11. 内部障害に応じた介護 ③膀胱・直腸・小腸機能障害に応じた介護 12. 内部障害に応じた介護 ④肝臓・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害に応じた介護 13. 難病に応じた介護 ①筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病に応じた介護 14. 難病に応じた介護 ②悪性関節リウマチ、筋ジストロフィーに応じた介護 15. 試験・まとめ		
評価方法	1. 筆記試験 2. 演習評価		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護過程総論 講義・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子 上 田 千恵
概 要 及 び 目 的	他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 ICF の概念を取り入れた専門的知識・技術をもって行われる、利用者を主体とする生活支援活動の展開方法を習得する。 介護過程を学び、自立支援に沿ったサービスを統合的・計画的に提供できる思考過程を身につける。		
授業内容	【介護過程の意義と基礎的理解】 1. 介護過程とは 2. 介護過程の意義・目的 3～5. 介護過程の基本視点 介護過程の全体像の理解 6. 介護過程の展開① アセスメント 7. 介護過程の展開② 介護計画の立案 8. 介護過程の展開③ 介護の実施 9. 介護過程の展開④ 評価 10～14. 介護におけるプレゼンテーションの必要性（コンピューター入門） 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポート（提出物）も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」 コンピューター：「30 時間アカデミック office2019」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護過程展開 I 講義・演習・30 時間・2 単位	教員名	小 淵 順子
概 要 及 び 目 的	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 介護過程におけるアセスメントの必要性を理解し、「必要な支援とその理由」を明確にする。事例学習を繰り返し、実習Ⅱ -1 にむけて実践的能力を養う。		
授業内容	【介護過程の展開の理解】 1. 介護過程の実践的展開 事例で学ぶ介護過程の展開について 2. アセスメントとは 3～6. 情報の収集 7～8. 情報の解釈・関連づけ・統合化 9～10. 課題の明確化 11. ケアマネジメントと介護過程の関係性 12～14. アセスメントの実施 演習 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護過程展開Ⅱ 演習・30 時間・1 単位	教員名	小 淵 順子 中 西 貴子
概 要 及 び 目 的	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 利用者のさまざまな生活の中から、個別の生活課題や潜在能力を引き出すための介護過程の展開について学ぶ。 利用者のさまざまな状況に応じた介護過程の展開方法について習得し、介護実習Ⅱ-1を通してアセスメント能力を主とした実践力を身につけ、実習Ⅱ-2につなげていく。		
授業内容	【介護過程の展開の理解】 1. 実習Ⅱ－1 にむけての介護過程の展開 2～6. 事例学習によるアセスメントの実践 7. 実習Ⅱ－1 担当利用者の振り返り 8. 介護計画の立案 【介護過程とチームアプローチ】 9～13. 模擬カンファレンス 14. 実習Ⅱ－2 にむけての介護過程 15. まとめ・試験		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポート（提出物）も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護過程展開Ⅲ(事例研究) 講義・60 時間・2 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	介護福祉士として実務経験を有する教員が、介護を必要とする人の状態に応じて適切な介護技術が提供できるよう実践的に指導する科目である。 他の科目で学習した知識や技術を統合して、一連の介護過程の展開を学習し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 介護実習の体験に基づくケース研究を行い、介護過程の展開を総合的に学ぶ。 介護実習Ⅱ-2 で担当した利用者を通して自立支援に向けて、総合的・計画的サービスを提供できる能力を身につける。		
授業内容	【介護過程の展開の理解】 1. 介護計画の立案 2. 介護の実施 3. 評価 【介護過程とチームアプローチ】 4. 介護過程とケアマネジメント① 介護過程とケアマネジメントの関係性 5. 介護過程とケアマネジメント② チームアプローチにおける介護福祉士の役割 6～8. 実習Ⅱ-2 にむけて 9～10. 実習の振り返り 【介護過程の展開の理解】 11. 事例研究の意義と目的、進め方 12～21. 事例研究作成、個人指導 22・23. 事例研究発表会（クラス発表） 24～27. 事例研究発表会 28・29. 施設のケアプランと介護過程 30. まとめ		
評価方法	1. 事例研究の総合評価 2. 出席点、提出物も加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 9 「介護過程」		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護総合演習 I 演習・60 時間・2 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	・介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。 ・一年次の介護実習に向けて、実習の心がまえ・予備知識・動機づけ等の準備を行い、実習の展開方法について理解する。 ・書類作成等実習に向けた一連の準備を行う。 ・他教科との連携を図りながら、事前学習を深める。 ・実習後の振り返りを通して、様々な暮らしと利用者ニーズを理解する。		
授業内容	1. オリエンテーション（実習 I ・ II について） 2-10. 実習 I - 1（高齢者施設）の意義・目的 〈実習 I - 1 の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習日誌の書き方 事前訪問指導 実習に必要な技術指導 実習直前オリエンテーション ※ 必要に応じて他教科の指導 実習の振り返り、発表、実習評価 11-20. 実習 I - 2・3（通所・訪問）の意義・目的 〈実習 I - 2・3 の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 通所・訪問事業所より特別授業 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価 21-22. 外出支援体験学習 23-29. 実習 I - 4（障害者施設）の意義・目的 〈実習 I - 4 の準備〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 障害者施設より特別授業 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価 30. まとめ		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	1. 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 2. 実習のしおり 3. 実習ファイル（関係書類配布）		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護総合演習Ⅱ 演習・60 時間・2 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	・ 二年次の介護実習に向けて、実習の心がまえ・予備知識・動機づけ等の準備を行い、介護実習Ⅱの意義・目的について理解する。 ・ 書類作成等実習に向けた一連の準備を行う。 ・ 他教科との連携を図りながら、事前および事後の学習を深め総合的な理解力を養う。 ・ 実習後の振り返りを通して、介護過程における利用者の生活とニーズを理解する。		
授業内容	1. オリエンテーション（実習Ⅱについて） 2-14. 実習Ⅱ－１（高齢者施設・障害者施設）の意義・目的 〈 実習Ⅱ－１の準備 〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習に必要な技術 実習直前オリエンテーション ※ 必要に応じて他教科の指導 実習の振り返り、発表、実習評価 15. 実習Ⅱ－２（高齢者施設・障害者施設）の意義・目的 16-22. 〈 実習Ⅱ－２の準備 〉 実習ファイル作成 実習先への各種書類作成 目標レポート 事前訪問 実習に必要な技術 実習直前オリエンテーション 実習の振り返り、発表、実習評価 23-29. 事例研究に向けて（介護実践の科学的探求） 30. まとめ		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	1. 中央法規 最新・介護福祉士養成講座 10 「介護総合演習・介護実習」 2. 実習のしおり 3. 実習ファイル（関係書類配布）		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護実習 I 実習・トータル 150 時間・3 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	○介護実習 I 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践、多職種連携の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 ●高齢者・障害者・・・利用者との人間的ふれあいを通じて利用者の日常生活を知り、必要とされる基本的介護を学ぶ。 ●通所介護・・・利用者との人間的ふれあいを通じて利用者の日常生活を知り、必要とされる基本的介護を学ぶ。 ●訪問介護・・・利用者の日常生活には、様々な暮らし方や住まいがあることについて知る。		
授業内容	高齢者（I－1）・障害者（I－4） 1. 施設の種別・施設・役割を知る。 2. 施設の日課を理解する。 3. 利用者及び施設職員との関わりの中でコミュニケーションの重要性を知る。 4. 観察の視点を養い、必要とされる援助について学ぶ。 通所介護（I－2） 1. 通所介護の機能・役割を知る。 2. 通所介護の日課を理解する。 3. 利用者及び家族とのコミュニケーションの必要性を知る。 4. 観察の視点を養い、必要とされる援助について学ぶ。 訪問介護（I－3） 1. 訪問介護の機能・役割を知る。 2. 利用者の生活には、その地域の文化・慣習が関与することを学ぶ。 3. 利用者及び家族とのコミュニケーションの必要性を学ぶ。 4. 生活の場において利用者の状況に応じた生活支援技術を学ぶ。 5. 住み慣れた地域での生活継続のためのケアマネジメントのしくみを理解する。 共通：実習に伴う一連のレポート、日誌、記録が書ける。 実習巡回時の面接指導		
評価方法	1. 実習日誌、レポート 2. 施設指導者による評価及び教員による総合評価 3. 出席簿		
テキスト	1. 実習のしおり 2. 実習ファイル（関係書類配布） 3. 各教科の教科書		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	介護実習Ⅱ 実習・トータル 300 時間・6 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 目 的	○介護実習Ⅱ 実習Ⅰの体験を踏まえながら、一つの施設・事業所において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。 ●実習Ⅱ -1・・・介護過程の実践的展開を軸に専門的知識や技術を統合し、総合的な援助ができる能力を養う。 ●実習Ⅱ -2・・・介護過程の実践的展開を軸に総合的な援助ができる能力を養い、自己の介護観を見出す。		
授業内容	介護実習Ⅱ -1 1. 利用者の生活支援に必要なアセスメントができる。 2. 基本的な介護技術の実践と応用。 3. 実習を通した多職種連携の理解。 4. 介護に必要な記録が書ける。 介護実習Ⅱ -2 1. 介護過程の実践的展開を通じて専門的・計画的に介護サービスを提供できる。 2. 根拠に基づいた個別ケアの実践。 3. 実習を通した多職種協働の実践。 4. 介護に必要な記録が書ける。 共通：実習に伴う一連のレポート、日誌、記録が書ける。 実習巡回時の面接指導		
評価方法	1. 実習日誌、レポート 2. 施設指導者による評価及び教員による総合評価 3. 出席簿		
テキスト	1. 実習のしおり 2. 実習ファイル（関係書類配布） 3. 各教科の教科書		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	【Ⅰ】こころのしくみ 講義・30 時間・2 単位	教員名	鈴木 晶子
概 要 及 び 目 的	介護実践に必要なとなる、心の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的精神的、社会的側面を総合的に捉えるための知識を身につける。 学習ポイントとして、様々な成長段階で生じる人の心理的特徴についての知識から、自らの考えを記述することで主体的に理解することを目指す。		
授業内容	【こころのしくみの理解】 1. 欲求と動機づけ 2. 認知と知覚 3. 学習と記憶 4. 発達理論（エリクソン・ピアジェ） 5. 乳幼児期の発達 6. 児童虐待 7. 児童期・青年期の発達、発達障害 8. 中間テスト 9. 精神疾患 10. 精神疾患 11. 成人期の発達、アディクション・共依存 12. 老年期の発達 13. 認知症とケア 14. 対象喪失・グリーフ、高齢者虐待 15. テスト		
評価方法	1. 試験（中間・終講） 2. レポート 3. 受講態度		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」 		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	【Ⅰ】からだのしくみ 講義・30 時間・2 単位	教員名	時岡 真美子 田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護に活かすためのからだのしくみを理解する。 人間のからだの仕組みに関する基本的理解と高齢者の疾病を理解する。 生活支援のために必要とされる基本的な人体の構造や機能、疾病について学び、根拠を持って援助ができる。		
授業内容	【からだのしくみの理解】 1. 健康とは、からだのつくりの理解 2. 細胞・組織・器官・器官系 3. 脳と神経系の構造と機能 4. 骨格系・筋系の構造と機能 5. 皮膚・感覚器系の構造と機能 6. 血液・循環器系の構造と機能 7. 呼吸器系の構造と機能 8. 消化器系の構造と機能 9. 腎・泌尿器系の構造と機能 10. 生殖器・内分泌・代謝系の構造と機能 11. 免疫系の構造と機能 12. 心身の調和を保つしくみ（自律神経系、免疫系） 13. 生命を維持するしくみ（バイタルサイン） 14. 介護福祉士に必要な薬の知識 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験 2. 提出点を加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみA 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は人を生活者としてとらえ、その生活障害に対して適切な介護を展開する。この科目では、移動・身じたく・食事・排泄などの生活行為別に、支援する方法を選択するための根拠を学習する科目である。生活者である利用者に、個々の状態にあった介護を提供するための根拠となる知識（生活動作のメカニズム）を学習し、科学的な介護が提供できる学びとする。		
授業内容	【移動に関連したところとからだのしくみ】 1 ～ 2. 姿勢、体位保持、座位保持、歩行、重心移動 他 3 ～ 4. 機能の低下・障害が移動に及ぼす影響 麻痺や骨粗鬆症など機能低下の原因、廃用症候群や骨折と移動への影響 5. 移動に関連するところとからだの変化の気づきと連携 【身じたくに関連したところとからだのしくみ】 6 ～ 7. 身じたくの意味、顔・口腔・毛髪の清潔、更衣 他 8. 機能の低下・障害が身じたくに及ぼす影響 機能の低下・障害原因、影響、口腔の清潔 他 9. 身じたくに関連するところとからだの変化の気づきと連携 【食事に関連したところとからだのしくみ】 10 ～ 11. 栄養素、食欲・食べる仕組み、咀嚼と嚥下、消化と吸収 他 12 ～ 13. 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響 機能低下の原因、影響 14. 食事に関連するところとからだの変化の気づきと連携 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	【Ⅱ】生活に関わるからだのしくみB 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は人を生活者としてとらえ、その生活障害に対して適切な介護を展開する。この科目では、移動・身じたく・食事・排泄などの生活行為別に、支援する方法を選択するための根拠を学習する科目である。生活者である利用者に、個々の状態にあった介護を提供するための根拠となる知識（生活動作のメカニズム）を学習し、科学的な介護が提供できる学びとする。		
授業内容	【入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ】 1. 皮膚・頭皮の汚れ、発汗のしくみ、入浴の作用 他 2. 機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響 機能低下、影響 他 3. 入浴・清潔保持に関連したところとからだの変化の気づきと連携 【排泄に関連したところとからだのしくみ】 4. 尿の生成と排尿、便の生成と排便、排泄の心理と尊厳 5～6. 機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響 排尿の機能低下の影響（尿失禁など）、排便の機能低下の影響（便失禁など） 7. 生活場面における排泄に関連したところとからだの変化の気づきと連携 【休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ】 8. サーカディアンリズム、レム睡眠とノンレム睡眠 他 9～10. 機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響 睡眠障害など障害原因、生活への影響 11. 生活場面における休息・睡眠に関連したところとからだの変化の気づきと連携 【人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ】 12. 「死」とは、尊厳死や安楽死、リビングウィル、意思決定支援 他 13. 「死」に対するところの理解 14. 終末期から危篤状態、死後の体の理解、終末期における連携 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 「ところとからだのしくみ」		
備 考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	発達と老化の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	大本 明美
概 要 及 び 目 的	生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。		
授業内容	【人間の成長と発達の基礎的理解】 1. 成長・発達の考え方、原則・法則 2. 成長・発達に影響する要因 【人間の発達段階と発達課題】 3. 発達理論 4. 発達段階と発達課題 5. 身体的機能の成長と発達 6. 心理的機能の発達 7. 社会的機能の発達 【老年期の特徴と発達課題】 8. 老年期の定義、老化とは 9. 老年期の発達課題 【老化に伴うこころとからだの変化と生活】 10～12. 老化にともなう身体的な変化と生活への影響 13～14. 老化にともなう心理的・社会的変化と生活への影響 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	発達と老化の理解Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	大本 明美
概 要 及 び 目 的	生まれてから死ぬまでの成長、発達する過程を通して人を理解し老年期における発達課題や高齢者に多い症状、疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体、心理、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。		
授業内容	【高齢者と健康】 1. 高齢者の健康 2. 健康長寿に向けて 【高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点】 3. 高齢者の疾患の特徴、老年症候群 4. 骨格、筋系 5. 脳、神経系 6. 皮膚、感覚器系 7. 循環器系 8. 呼吸器系、消化器系 9. 腎、泌尿器系 10. 内分泌系他 11. 歯、口腔疾患 12. 悪性新生物、感染症 13. 精神疾患、その他 【保健医療職との連携】 14. 連携の必要性、他 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	認知症の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	網島 公子 田中 いづみ
概 要 及 び 目 的	認知症に関する基礎的理解を習得し、その特性を理解する。 認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援の在り方を学ぶ。 認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族の支援ができる。		
授業内容	【認知症をとり巻く状況】 1. 認知症ケアの歴史（わが国の歴史的背景） 2. 認知症ケアの理念、倫理、権利擁護 3. 認知症のある高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策 他 【認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解】 4. 認知症とは何か 定義、診断基準、認知症の特徴 5～6. 認知症のさまざまな症状 中核症状と B P S D 7. 認知症の検査、診断 8. 認知症と鑑別すべき症状、疾患 9～10. 認知症の原因疾患と症状 アルツハイマー型、血管性 他 11. 若年性認知症 12. 認知症治療 13. 認知症の予防 認知症の危険因子、予防、軽度認知障害 他 14. 認知症の人の心理 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	認知症の理解Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 石川 静葉 他
概 要 及 び 目 的	認知症本人、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。 認知症の現状を理解し、その特性と日常生活への影響を考えた支援の在り方を学ぶ。 認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人への適切な介護、家族への支援ができる。		
授業内容	1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア コミュニケーション、社会とのかかわり 2～5. 認知症ケアの実際 意思決定支援、パーソンセンタードケア、コミュニケーション 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール、センター方式 認知症の人への生活支援、環境への配慮、人生の最終段階のケア 6～7. 認知症の人へのさまざまなかかわり RO、回想法、音楽療法、バリデーション 他 8～9. 地域におけるサポート体制 地域包括支援センター、地域連携、ボランティア、認知症疾患医療センター 認知症地域支援推進員、認知症カフェ 他 10～11. 連携と協働 地域包括ケアシステム、認知症ケアパス 他 12. 家族介護者への支援 認知症の人の家族を支える視点とレスパイトケア 13. 介護福祉職への支援 働きやすい職場環境の整備、ケアモデルを実践するための環境整備 14. 認知症の人の地域生活支援 オレンジプランから新オレンジプランへ、多職種連携と協働 他 15. 試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポートも加味する		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	障害の理解 I 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 齋藤 真智子 他
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は、介護サービスを提供するにあたり、サービス利用者となる障害のある人についての理解が必要である。「障害の理解」は、医学的・心理的・社会的な面から利用者が持つ障害について基礎的な知識を修得するとともに、生活への影響について理解をする。また、障害のある人や家族が地域生活を継続するための支援についての知識を身につけるための学習とする。		
授業内容	【障害の基礎的理解】 1. 障害の概念 定義、ICIDH から ICF へ 2. 障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーション、インクルージョン、エンパワメント 他 3. 障害者福祉の現状と施策 就労支援、意思決定支援、成年後見人制度、障害者総合支援法 他 【障害の医学的・心理的側面の基礎的理解】 4. 障害のある人の心理 5～7. 肢体不自由（運動機能障害） 8. 視覚障害 9. 聴覚障害 10. 言語障害 11. 重複障害 12. 知的障害 13. 重症心身障害 14. 高次脳機能障害 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	障害の理解Ⅱ 講義・30 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 他
概 要 及 び 目 的	介護福祉士は、介護サービスを提供するにあたり、サービス利用者となる障害のある人についての理解が必要である。「障害の理解」は、医学的・心理的・社会的な面から利用者が持つ障害について基礎的な知識を習得するとともに、生活への影響について理解をする。また、障害のある人や家族が地域生活を継続するための支援についての知識を身につけるための学習とする。		
授業内容	【障害のある人の生活と障害の特性に合わせた支援】 1. 内部障害の原因と特性、心臓機能障害 2. 呼吸機能障害 3. 腎臓機能障害 4. 膀胱・直腸機能障害 5. 小腸機能障害 6. ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 7. 肝臓機能障害 8. 精神障害 9. 発達障害 10. 難病 11～12. 障害に伴う機能変化と自立支援 機能変化と生活への影響、生活と障害、生活上の課題と支援、 障害者を取り巻く環境、手帳、自立支援、QOL を高める支援 他 13. 連携と協働 地域におけるサポート体制、多職種連携と協働 14. 家族への支援 家族の状況、家族への支援 15. まとめ、試験		
評価方法	1. 試験		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 14 「障害の理解」		
備 考			

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	医療的ケア 講・演・60 時間・2 単位	教員名	田中 いづみ 他
概 要 及 び 目 的	看護師として実務経験を有する教員が、医療的ケア及び救急蘇生法の理論と技術習得を実践的に指導する科目である。 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。		
授業内容	【医療的ケア実施の基礎】 1. 人間と社会 2. 保健医療制度とチーム医療 3～4. 安全な療養生活 リスクマネジメント、救急蘇生法 他 5～6. 清潔保持と感染予防 感染管理と予防、滅菌と消毒、職員の感染予防 他 7～8. 健康状態の把握 バイタルサイン、急変状態の把握 他 【喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）】 9～15. 吸引の基礎的知識 呼吸のしくみと観察、喀痰吸引法、家族や利用者の気持ち、感染予防 急変時の対応、子どもの吸引、吸引に伴うケア 他 16～21. 喀痰吸引の実施手順 喀痰吸引で用いる器具・機材、清潔操作、留意点、ケア、報告と記録 他 【経管栄養（基礎的知識・実施手順）】 22～28. 経管栄養の基礎的知識 消化器系のしくみとはたらき、経管栄養法、実施上の留意点、感染予防 利用者や家族の気持ち、急変時の対応、子どもの経管栄養、ケア 他 29～34. 経管栄養の実施手順 経管栄養で用いる器具・機材、清潔操作、技術と留意点、ケア、報告と記録 他 35. 筆記試験 36. 救急蘇生法 37～40. 演習と評価 吸引、経管栄養、演習テスト		
評価方法	1. 試験（筆記と実技）		
テキスト	中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 15 「医療的ケア」		
備 考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	国家試験対策Ⅰ 講義・60 時間・4 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	国家試験は 2 年間の集大成である。1 年生の時から学習定着度を再確認するとともに、学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100%合格を目指し学習を深めることを目的とする。		
授業内容	1. 介護福祉士国家試験の概要 2-22. 国家試験の傾向と対策について、科目ごとに押さえる (国家試験の出題科目とその内容を理解する) 【領域：人間と社会】 人間の尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション 社会の理解 【領域：介護】 介護の基本 コミュニケーション技術 生活支援技術 介護過程 【領域：こころとからだのしくみ】 こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 認知症の理解 障害の理解 【領域：医療的ケア】 医療的ケア 【4 領域から総合的に出題】 総合問題 23-26. 模擬試験の実施 27-30. 模擬試験の振り返り		
評価方法	筆記試験（中間・終講）		
テキスト	1. 各教科の教科書 2. 配布資料		
備 考	※外部模擬試験の受験にあたり、受験料が必要。		

年次・学期	2 年次・通年	担当科	介護福祉学科
科 目 名	国家試験対策Ⅱ 講義・60 時間・4 単位	教員名	介護福祉学科教員
概 要 及 び 目 的	国家試験は 2 年間の集大成である。 学習定着度を再確認するとともに、学習修得度にあわせて個別対応を取り入れ、100% 合格を目指し学習を深めることを目的とする。		
授業内容	1-4. (オリエンテーション) ・国家試験までの学習スケジュールを立てる ・国家試験の受験手続など 5-20. 出題科目ごとの傾向と対策 ・国家試験に準じた模擬問題の実施と振り返り 21-30. 外部模擬試験の受験 (3 回実施)		
評価方法	筆記試験 (中間・終講)		
テキスト	1. 各教科の教科書、各自国試対策にて準備している参考書 2. 配布資料		
備 考	※ 外部模擬試験の受験にあたり、受験料が必要。 ※ 介護福祉士国家試験の受験にあたり、受験料が必要。		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	法学 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・30 時間・2 単位	教員名	大田 晋
概 要 及 び 目 的	我われの社会における共通ルールが「法」であり、法の中には憲法、法律、政令などがある。講義では、まず、それら法の世界の全体像を理解する。 講義を通じて法とはなにか、法の役割、法に基づく権利と義務を学ぶ。 また刑法、民法の基本知識を習得し、さらに憲法について詳しく学習する。		
授業内容	1. イントロダクション（講義の概要、ねらい、受け方） 2. 「法」とは何か 3. 「法」の分類と体系 4. 「法律」と国民生活（社会） 5. 「刑法」 6. 「民法」 7. 「日本国憲法」① 全体像 8. 「日本国憲法」② 制定の経過（歴史） 9. 「日本国憲法」③ 国民主権 10. 「日本国憲法」④ 基本的人権（総論） 11. 「日本国憲法」⑤ 基本的人権（各論） 12. 「日本国憲法」⑥ 平和主義（戦争放棄） 13. 「日本国憲法」⑦ 国家統治機構（1）（天皇、国会、裁判所） 14. 「日本国憲法」⑧ 国家統治機構（2）（内閣、憲法改正） 15. 終講試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、ノート作成、レポート提出を加味する。		
テキスト	テキストはとくに使わない。 毎回、講義レジュメ（講義のポイントのペーパー）を配布する。 憲法条文集を購入すること。（「日本国憲法」童話屋発行）		
備 考	A4 判ノートを用意し、配布するレジュメプリント（B5 判）を左側ページに貼り、右ページに講義を聞きながらノートを取る。		

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	経済学 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・30 時間・2 単位	教員名	吉田 信
概 要 及 び 目 的	社会福祉主事を目指すものとして必要な経済学に関する知識を身につける。 経済学を学ぶことにより、経済活動が国民にとってまた自分自身の生活にどのように関連しているのかを学び、社会福祉の視点で捉え理解することをねらいとする。		
授業内容	1. ビジネス経済一般Ⅰ（経済と流通の基礎、ビジネスの担い手） 2. ビジネス経済一般Ⅱ（企業活動の基礎、ビジネスと売買取引） 3. 市場と経済、資源配分の仕組み 4. 現代の市場経済とビジネス 5. 需要の概念と需要の変化 6. 供給の概念と供給の変化 7. 価格決定の仕組み 8. 市場の役割と課題 9. GDP と経済循環、物価と実質 GDP 10. 経済成長 11. 財政と金融 12. 企業の国際化・グローバル化 13. ビジネスの創造と地域産業の振興 14. 地域ビジネス事情 15. まとめと試験 ※毎時間授業の最初に、発表者が新聞記事を持って来て、プレゼンテーションを行い、その後ディスカッションを行います。		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート提出 3. 調査研究発表 4. 演習に取り組む姿勢		
テキスト	1. 「ビジネス経済」 佐々木宏夫 実教出版 2. その都度プリント、資料等を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	児童福祉論 [※ 社会福祉主事養成科目] 講義・30 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 目 的	児童福祉に関する歴史的な流れや児童福祉の意義を学び、現代社会における子どもやその保護者が抱える多様な問題に対する考察を深める。そして、一人ひとりの子どもが心身ともに健やかに発達・成長するために必要な支援、子どもにとって大切な存在である保護者を支えるために必要な支援を学ぶ。そして、子どもの権利を保障することを通して、子どもの最善の利益を実現することが可能な社会を考えていく。		
授業内容	1. 児童家庭福祉の考え方 2. 児童家庭福祉の歴史 3. 児童家庭福祉行政の仕組み 4. 児童家庭福祉の機関と施設 5. 健全育成サービス・母子保健サービス 6. 保育サービス・ひとり親家庭への福祉サービス 7. 要養護児童への福祉サービス 8. 子どもの虐待の防止とその対応① 9. 子どもの虐待の防止とその対応② 10. 少年非行への対応① 11. 少年非行等への対応② 12. 障害児福祉サービス① 13. 障害児福祉サービス② 14. 児童福祉でのソーシャルワーク 15. 試験		
評価方法	1. 試験 2. レポート 3. 出席状況		
テキスト	必要に応じて資料を配布する ミネルヴァ書房 新プリマーズ 「児童家庭福祉」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	地域福祉論 [※ 社会福祉主事養成科目] 講義・30 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子
概 要 及 び 目 的	地域福祉の基本的考え方について理解する。 地域福祉の主体と対象について理解する。 地域福祉にかかる組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際について理解する。 地域福祉の推進方法について理解する。		
授業内容	1. 地域福祉の基本的な考え方 2. 地域福祉の先駆け 3. 事前学習（保護司とは何か。社会福祉協議会とは何か。） 4. 保護司のお仕事（保護司を招いて） 5. 社会福祉協議会とは（岡山市社会福祉協議会の職員を招いて） 6. 権利擁護について学ぼう① 7. 〃 ② 8. 〃 ③ 9. 災害と地域福祉（災害時のボランティアとは） 10. 面接の技法について① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. 〃 ⑤ 15. 終講テスト		
評価方法	1. 試験 2. レポート		
テキスト	参考文献：社会福祉法人・全国社会福祉協議会 「地域福祉論」 ※必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉援助技術演習 [※ 社会福祉主事養成科目] 演習・30 時間・1 単位	教員名	太田 修平
概 要 及 目 的	個人で取り組む個人ワーク、グループで取り組むグループワーク、面接場面を想定したロールプレイングを通して相談支援に必要な基本的な知識や技法を学ぶ。さらに授業を通して相談支援に必要な基本的な価値観や倫理観を学んでいく。この授業を通して、他者の言葉を聴く力や自分の言葉を伝える力というソーシャルワーカーとして必要な力を身につける。		
授業内容	1. 人としての価値観 (価値観の多様性、他者理解、他者の価値観の尊重 など) 2. 相談支援に必要な基本的な価値観と倫理観 3. 自己覚知 4. 基本的なコミュニケーションスキル 5. 面接に必要な基本的技術		
評価方法	1. 試験 2. レポート 3. 出席状況・受講態度		
テキスト	必要に応じて資料を配布		
備 考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	福祉事務所運営論 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・30 時間・2 単位	教員名	藤本 昌弘
概 要 及 び 目 的	福祉事務所の組織、業務や運営に当たっての基本的知識を身に着けるとともに、各種社会資源との連携の重要性を学習する。また、福祉事務所の専門職員としての社会福祉主事の役割と責任を自覚し、基本的な援助技術や各種制度について事例研究や演習を通じて理解を深めることを目的とする。		
授業内容	1. 現代社会と福祉事務所の運営 2. 福祉事務所の成立と歴史的展開 3. 福祉事務所の業務と組織 4. 福祉事務所と関係社会資源との連携 5. 福祉事務所の運営と民生委員の役割 6. 福祉事務所の専門職員とその役割 7. 社会福祉主事の専門性 8. 社会福祉主事の業務と倫理 9. 社会福祉援助技術の展開 10. 社会福祉援助技術の実践 11. 福祉事務所の業務に関する法制度① ・生活保護制度 ・生活困窮者自立支援制度 12. 福祉事務所の業務に関する法制度② ・児童、母子福祉 ・高齢者福祉 ・障害者福祉 13. 福祉事務所における自立支援の事例 ①事例研究 ②相談面接演習 14. 福祉事務所をめぐる最近の政策動向等と課題 15. 試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点		
テキスト	ミネルヴァ書房「福祉事務所運営論」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期～2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉施設経営論 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・60 時間・4 単位	教員名	小幡 篤志 長壽 厚志
概 要 及 目 的	福祉サービスの安定的な供給には、提供主体となる事業者の運営の安定性と持続性、そこで働く各職種の職員の能力が最大限発揮されるような条件整備が必要である。そのために、各形態別の組織の根拠の低となる法制度を学ぶとともに、運営管理の基本的な技法や品質管理、リスクマネジメントの手法等を学ぶ。		
授業内容	・オリエンテーション ・福祉サービスにおける組織と経営 ・法人制度の基本 ・社会福祉法人制度① 社会福祉法の規定 ・社会福祉法人制度② 関連通知、要項 ・その他の形態の法人①（特定非営利活動法人、医療法人） ・その他の形態の法人②（社団法人、財団法人、営利法人等） ・組織経営の基礎理論 ・集団力学に関する理論 ・リーダーシップに関する理論 ・サービスの質の評価 ・事故防止とリスクマネジメント ・労務管理 ・人材育成と研修制度 ・会計と財務管理 ・情報の共有と活用 ・情報の管理と保護 ・総合的なふり返り		
評価方法	1. 試験 2. 出席点		
テキスト	中央法規出版 最新・社会福祉士養成講座 1「福祉サービスの組織と経営」		
備 考			

年次・学期	1 年次・後期、2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習指導 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 講義・60 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子 太田 修平
概 要 及 び 目 的	・社会福祉現場実習の意義について理解する。 ・実習へむけた準備（心構え、予備知識、動機付け等）を行い、実習の展開を理解する。 ・実習施設の概要の理解を深める。 ・実習での学びを整理し、発表できる。		
授業内容	1. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅰ」に向けて（意義・目的） ・実習ファイル作成 2. 実習施設の種別・専門職の理解 3. 実習施設の発表と目標立案（Ⅰ）・実習施設への各種書類作成 4. 相談援助職の理解①（養護老人ホーム） 5. 相談援助職の理解②（障害者支援施設） 6. 事前訪問について（電話でアポイント） 7. 実習計画表の作成（Ⅰ） 8. 事前訪問の確認 9. 事前訪問 10. 日誌について 11. 実習直前オリエンテーション 12～15. 実習の振り返り（・発表 ・お礼状の作成） 16. オリエンテーション 「社会福祉現場実習Ⅱ」に向けて（意義・目的） 17. 実習施設の種別・専門職の理解（振り返り） 18. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ-①）・各種書類作成 19. 実習施設の発表と目標立案（Ⅱ-②）・各種書類作成 20. 実習書類の確認 21. 事前訪問について（電話でアポイント） 22. 実習計画表の作成（Ⅱ-②） 23. 事前訪問の確認 24. 事前訪問（Ⅱ-②） 25. 日誌・記録物について 26. 実習直前オリエンテーション 27～30. 実習Ⅱ-①②の振り返り（・発表 ・お礼状の作成）		
評価方法	1. 提出物 2. 授業態度		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備 考	参考文献 中央法規出版「社会福祉士 相談援助実習」（第2版） （社団法人日本社会福祉士養成校協会監修）		

年次・学期	1 年次・後期、2 年次・前期	担当科	介護福祉学科
科 目 名	社会福祉現場実習 〔※ 社会福祉主事養成科目〕 実習・トータル 90 時間・2 単位	教員名	齋藤 真智子 太田 修平
概 要 及 び 目 的	・ 現場体験を通じて社会福祉主事として仕事をする上で必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。 ・ 講義、演習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている社会福祉の受容に関する理解力、判断力を養う。 ・ 社会福祉の知識や技術を実際に活用し、援助を必要とする高齢者や障害者等に対する「相談援助業務」に必要な資質・能力・技術を修得する。 ・ 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。 ・ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。		
授業内容	〈主事実習Ⅰ〉（6 日間）高齢者・障害者施設 （1）相談援助を担う職種の役割と業務内容を理解する。 （2）施設の種別・機能・役割を理解する。 （3）様々な利用者や家族とのコミュニケーションを通じて、利用者の状況や思いを知る。 （4）相談援助職を担う自身の性格を見つめる。 〈主事実習Ⅱ－①〉（1 日間）福祉事務所 （1）福祉事務所の役割や業務内容を理解する。 （2）福祉ニーズを要する要援助者像を理解し、そのニーズに対する援助方法を学ぶ。 〈主事実習Ⅱ－②〉（5 日間）高齢者・障害者施設 （1）相談業務を担う職種の役割と業務内容を理解する。 （2）利用者やその家族との関わりから要援助者ニーズを理解し、その援助に必要な知識、援助技術の内容を理解する。 （3）多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを理解する。 （4）地域における施設のあり方を理解する。 （5）自身の考え方や傾向を見つめ、自覚する。		
評価方法	1. 実習指導者及び担当教員による総合評価 2. 実習日誌、レポート		
テキスト	「社会福祉現場実習のしおり」 ※適宜、参考資料を配布する		
備 考	< 参考文献 > 中央法規出版「社会福祉士 相談援助実習」（第 2 版） （社団法人日本社会福祉士養成校協会監修）		

SYLLABUS

－講義概要－ 2022年度版

令和4年4月1日発行

●発行 旭川荘厚生専門学院

●印刷 株式会社 みつ印刷

